

技術情報

J A全農やまぐち
TAC 営農推進課 (083-988-0681)
平成 25 年 8 月 12 日 発行
第 176 号

トビイロウンカの注意報発令 ～9月中旬以降収穫の圃場は要注意～

8月12日付で、トビイロウンカの注意報が、9月中旬以降に収穫する圃場を対象に発令されました。

つきましては、防除に万全が期されますよう、下記及び「発生予察注意報第2号(写)」を参考に、ご指導をお願いします。

記

1 注意報の予報内容

- (1) **発生地域** 県下全域 (9月中旬以降に収穫する圃場)
- (2) **発生時期** 8月中旬 (幼虫最盛期 (第二世代))
9月上旬～下旬 (幼虫最盛期 (第三世代))
- (3) **発生程度** やや多

2 防除対策

- (1) **防除時期** 8月18～21日頃及び9月7日～24日 (幼虫最盛期)
- (2) **防除薬剤** 基幹防除剤及び専用剤 (専用剤は表のとおり)

3 防除上の留意事項

- (1) 8月上旬現在の発生は、警報が発令された平成19年と比べ、短翅型成虫率は低いものの発生圃場率(58.1%)、防除の目安を超えた圃場率(26.7%)がそれぞれ平成19年の51.2%、29.1%と同等で、極めて多い状況です。
- (2) 防除適期は卵が最も少ない時期に設定されています。卵が少ない8月の防除の効果が高いのに対し、9月はどの時期に防除しても卵が多く残り、十分な効果が期待できません。また、9月は収穫前で雨で降って防除ができないことも考えられます。
よって、穂ばらみ期～穂揃期を重点防除時期として防除を実施してください。
- (3) 防除薬剤は基幹防除剤の他残効が長く、効果の高い剤を使用してください。
- (4) 防除の目安は株当たり5頭以上です。防除後も卵が残ることがあるので、防除7日後頃に防除効果を確認し、発生があれば再度防除してください。
- (5) 坪枯れはトビイロウンカの吸汁による茎の脱水症状によって発生します。高温乾燥に加え収穫前の早期落水は坪枯れの発生を助長しますので、適期の落水に努めてください。

主要殺虫剤(平成25年農作物病害虫・雑草防除指導基準)

粉剤

商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
アブロードバッサ粉剤DL (普)(B,Bs)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内),BPMC5回以内	—
スタークル粉剤DL アルバリン粉剤DL(普)(A)	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ダントツH粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
MR. ジョーカー粉剤DL (普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内	—
トレボン粉剤DL(普)(B)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内	—
トレボンスター粉剤DL (普)(B,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内,ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
パダントレボン粉剤DL (普)(B,Bs)	3~4kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内,カルタップ6回以内(但し、種もみ浸漬は1回以内、床土への混和及び育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内)	—
クラブ粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)	—
クラブジョーカー粉剤DL (普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内),シラフルオフェン2回以内	—

粒剤

商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
アブロード粒剤(普)(B)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	4回以内	湛水散布	プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内)	ウンカ類はウンカ類幼虫で適用。遅効的だが、残効性に優れる(約30日)。成虫に直接効果は無いが、卵をふ化させない作用がある。
アブロードパダン粒剤 (劇)(Bs,B)	3~4kg/10a	収穫30日前まで	4回以内	湛水散布	カルタップ6回以内(但し、種もみ浸漬は1回以内、床土への混和及び育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内),プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内)	ウンカ類はウンカ類幼虫で適用
スタークル粒剤 アルバリン粒剤(普)(A)	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
スタークル豆つぶ(普)(A)	250~500g/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ダントツ粒剤(普)(A)	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	—	—
ベストガード粒剤(普)(A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	ニテンピラム4回以内	—
クラブ粒剤(普)(A)	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	湛水散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)	—
トレボン粒剤(普)(B)	2~3kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内	ニカメイチュウはニカメイチュウ第1世代で適用

液剤

商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
アブロードフロアブル (普)(B)	1000倍,60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内)	ウンカ類はウンカ類幼虫で、ツマグロヨコバイはツマグロヨコバイ幼虫で適用。遅効的だが、残効性に優れる。成虫に直接効果は無いが、卵をふ化させない作用がある。
アブロード水和剤(普)(B)	1000~2000倍	—	—	—	—	—
MR. ジョーカーEW (普)(A)	2000倍,60~150 リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内	—
アブロードスタークルゾル (普)(A,B)	1000倍,60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内),プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内)	—
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 (普)(A)	3000倍,60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	収穫7日前まで	収穫7日前まで	収穫7日前まで	収穫7日前まで
スタークル液剤10 スタークルメイト液剤10 (普)(A)	1000倍,60~150 リットル/10a	—	—	—	—	—
ダントツフロアブル(普)(A)	5000倍,60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ダントツ水溶剤(普)(A)	4000倍,60~150 リットル/10a	—	—	—	—	—
クラブフロアブル (普)(A)	2000倍,60~200 リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)	—
トレボン乳剤(普)(B)	1000~2000倍,60 ~150リットル/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内	—
トレボンスターフロアブル (普)(B,A)	1000倍,60~150 リットル/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内,ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
クラブジョーカーフロア ブル(普)(A,A)	1000倍,60~200 リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内),シラフルオフェン2回以内	—

平成25年8月12日

山口県

病虫害名 水稻のトビイロウンカ

1 発生地域 県内全域（9月中旬以降に収穫するほ場）

2 発生時期 8月中旬（幼虫最盛期（第二世代））
9月上旬～下旬（幼虫最盛期（第三世代））

3 発生程度 やや多

4 注意報発令の根拠

- (1) 8月6日～8日の巡回調査では、発生ほ場率は58.1%で平成24年（18.8%）の約3倍、防除の目安（8月上旬に100株当たり20頭以上）を超えたほ場率は26.7%で平成24年（7.0%）の約4倍であった（図1）。
- (2) 上記調査では、増殖率が高く坪枯れの原因となる短翅型成虫は10株当たり0.7頭（平成24年0.3頭）で、平成24年の2倍以上であった。
- (3) 本年の発生は、7月以降の高温により急増しており（図2）、九州北部地方1か月予報では今後も高い気温が見込まれているため引き続き増加が予想される。

5 防除方法

- (1) 防除時期（粉剤・液剤）
8月17日～21日（幼虫最盛期）
※防除後も防除の目安を超える場合は、再度、防除を実施する。
- (2) 防除の目安
成幼虫数が1株当たり5頭以上
- (3) 防除薬剤
防除薬剤は、平成25年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 重点防除時期（穂ばらみ期～穂揃期）の防除を徹底する。
- (2) ほ場での発生状況を確認し、効果の高い薬剤により防除を的確に行う。
- (3) 薬剤が株元にかかるように、丁寧に散布する。
- (4) 収穫期が迫り薬剤散布ができないほ場は、早めに収穫する。
- (5) 防除にあたっては、適正な薬剤散布作業の実施、使用基準の遵守など安全で効果的な防除に努める。

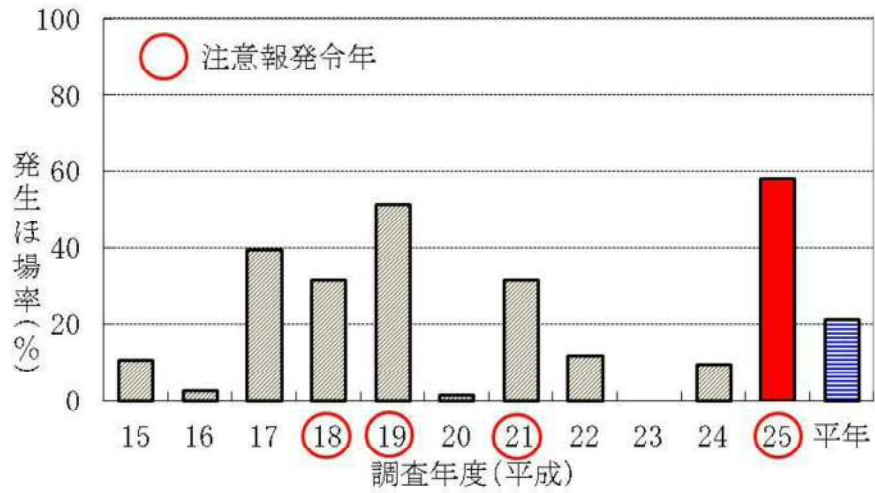


図1 8月上旬の発生ほ場率の比較

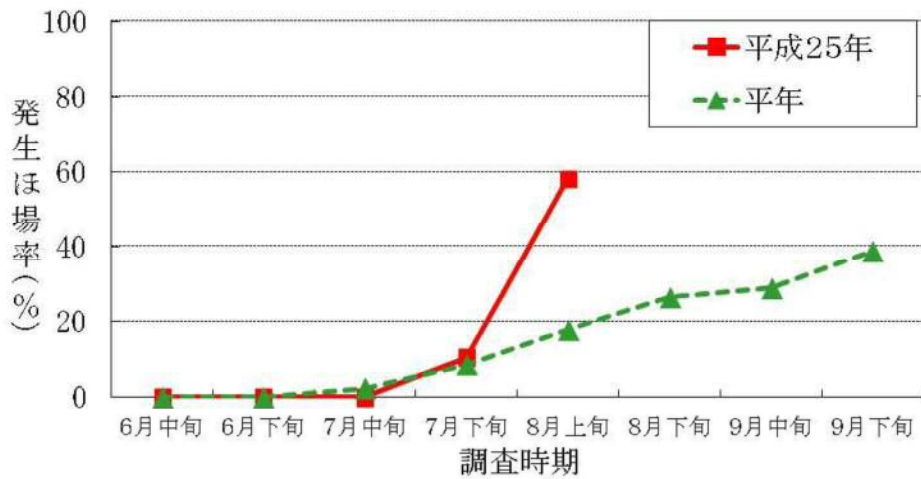


図2 本年及び平年の発生ほ場率の推移

トビイロウンカの 飛来日	8月						9月					
	1	5	10	15	20	25	1	5	10	15	20	25
△ 6月19日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
△ 7月3日	A	A	A	A	A	A	-	-	-	-	-	-
△ 7月25日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

防除適期 凡例 A: 成虫 - : 卵 o: 幼虫 @: 防除適期
 ☆ 主要な飛来 ◎ 多飛来 ○ 並飛来 △ 少飛来

図3 トビイロウンカの防除適期予測図 (予測日 平成25年8月12日)



写真1 短翅型成虫



写真2 長翅型成虫



写真3 幼虫



写真4 坪枯れ